



ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。



巷で見かける・簡単に入手できる・身近な 有毒植物誤食の危険

老人介護施設において、観賞用植物「イヌサフラン（別名コルチカム）球根」を誤食し、亡くなるという事例がありました。

このイヌサフランは、球根から花茎を伸ばし、サフランに似た花をつけます。観賞用として、一般の量販店で普通に販売されていますが、その球根や葉・茎には毒性成分のアルカロイド「コルヒチン」を含み、一般家庭においても他の食用植物と間違ったためによる食中毒事故が発生しています。

患者・利用者の療養環境を改善する目的で、観賞用の植物が配置されることは珍しいことではありませんが、よく見かける植物にも毒性を持った成分が含まれていることがあることをご存知でしょうか。市販されている植物に毒性があっても、説明書には記載されていないケースが多いので、注意が必要です（今回の事例でも、店頭での標示はありませんでした）。

イヌサフランの毒性

成分のアルカロイド「コルヒチン」は、痛風発作治療薬として使用されている。種子には0.2～0.6%、鱗茎には0.08～0.2%含まれる。中毒症状として嘔吐、下痢、皮膚の知覚減退、呼吸困難などが見られ、重症の場合は死亡することもある。ヒトの最小致死量は、体重50Kgの場合、コルヒチンとして4.3mg程度とされている。これは球根にして2.15g～5.38gであり、ほんの一片でも危険な量であるということを示す。

「厚生労働省：自然毒のリスクプロファイル」より引用

イヌサフラン



「安全情報 NO.35」で紹介した「中毒 110 番」でも、動植物の毒によって起こる急性中毒についての問い合わせが可能です。

★中毒原因物質（誤食した植物）の正確な名前が把握できていることが必要です。

身近にある観賞用の植物（市販していたり、庭などに見かける）で、有毒・有害なもの

主に切り花で飾られるもの

名前	中毒症状
キョウチクトウ	下痢、嘔吐、眩暈、頻脈、運動失調など
アジサイ	下痢、嘔吐、吐き気、眩暈など
トリカブト	口唇や皮膚の灼熱感、流涎、嘔吐、歩行困難、呼吸困難など
スイセン	嘔吐、下痢、食欲不振、昏睡、低体温など
ヒガンバナ	嘔吐、下痢、食欲不振、昏睡、低体温など
スズラン	下痢、嘔吐、眩暈、頻脈、運動失調など

鉢植えて飾られるもの

名前	中毒症状
フクジュソウ	下痢、嘔吐、眩暈、頻脈、運動失調など
クリスマスローズ	腹痛、嘔吐、下痢、血圧低下など
カロライナジャスミン	眩暈、呼吸機能の低下など
ポインセチア	下痢、痙攣、（樹液付着で皮膚炎）など
アイビー	下痢、嘔吐など

ここに掲載したものは一例であり、食した量や部位によって症状の出方には差があります。

★介護施設や療養病棟では、認知症からくる「誤食」を常に注意する必要があります。

★すべての植物を排除することも可能ですが、利用者・患者にとって快適な療養環境を提供するために必要な場合もあるでしょう。

★「有毒なものは持ち込まない」と同時に、「飾る場所」や「飾り方」に配慮して、誤食につながらないよう管理の徹底をしましょう。